

案して、この計画内で将来につけを回さないよう進めてきた。残された期間についても、3か年程度の中期財政計画をしっかりと持ちながら、課題解決に向けた事務事業に取り組み考えてある。

また、人口が減少し、職員も減少するなかで、地方分権、権限移譲により、多種多様な事務が必要となってくるが、現在の事務量の再点検を行い、移譲を受けられる部分については、新年度からしっかりと考えていきたい。

## 町長直属の専門委員は必要か

### 妻島公一 議員

町長は突如として来年度予算に、町長直属の専門委員を設置するとして400万円を計上した。次の2点について伺う。

①町長直属の専門委員の

具体的な仕事は何か。また、身分・権限の範囲は。

②町政執行は、町長を中心に職員全員の英知を集めることではじめて機能する。町長直属の専門委員と役場機構とのかかわりをどのようにとらえているのか。

### 高薄町長

①具体的な仕事としては、平成23年度からスタートする新たなまちづくり計画に向けた各種調査・研究を行ってもらう。

身分は非常勤の公務員であり、権限については、私の権限に属する事務に関して私の指示を受け、調査・研究を行い、私へ報告することが職務権限となる。

②専門委員は、役場の組織機構とは別なもので、職員に対し指揮命令することはできないし、職員も同委員に対して指揮命令はできない。あくまで、町長直属の委員としての位置付けとなる。

## コミュニティバスはどうなるのか

### 妻島公一 議員

今年1月から、公用車を活用したコミュニティバスの試験運行をしていたが、次の2点について伺う。

①利用状況はどのようになっているか。また、試験運行により出てきた問題点、今後の運行への改善点は何か。

②新年度からの運行見通しはどうか。

### 高薄町長

①清水市街の利用状況は556人、御影市街が263人、十勝清水駅・御影駅間の利用も含めた全体では847人となっている。

また、1日当たりの平均乗車稼働率は18・4人、1巡回当たり3人の利用となっている。

利用者は、60歳以上が70%を占め、利用目的は通院

や町内の買い物が多数という状況である。

十勝清水駅から御影駅間の利用率が特に低く、分析が必要と考える。利用率が低い路線等について、運行時間や巡回ルートの更なる調査・研究を進める。

②現在、国の補助を受けて運行するために、町内等の関係機関と協議会を立ち上げた。今後、運行計画を策定し、事業採択がなされれば、平成23年度から実証運行に取り組みたいと考えている。

## 町民による事業仕分け

### 口田邦男 議員

今後の各公共サービスの担い手として、これまでどおり、行政・町民団体、委託業者が行うべきか。

事業や予算等の検証・議論を行う場として、町民による事業仕分けは、協働の

まちづくりの観点からも画期的なことだと思いが、どう考えるか。

### 高薄町長

まちづくり基本条例により、町民参加のまちづくりを進めており、事業仕分けについても、町民目線で事業内容やその担い手を議論していただくことは、大変有効なものと考えているので、検討していきたい。

## 高速道路の無料化によるまちおこしの考えは

### 口田邦男 議員

高速道路の無料化によって、車や人の流れが大きく変わり、本町への影響は大であると思われる。

よく分析し、まちおこしを進めるべきと考えるが、次の点について伺う。

①高速道路無料化による車の流れの変化をどのようにとらえ、分析をしてい



当町のインターチェンジは道東の玄関口となる。その利点を産業活性化にいかしていきたい。

②観光・農産業・商店街への影響と、今後の取り組みはどう考えているのか。

③道の駅の設置は。

### 高薄町長

①今年6月から通行料の無料化、更に来年度は全線開通で札幌圏と繋がり、十勝清水ICは道東の玄関口となるが、昨年占冠開通後は開通前と比較して約10%乗降車両が増えている。今後も増加するものとして予想される。

②乗降車両の増加を観光へ結びつける方策としては、名所や食などを通して、